道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK

☆三好礼子の☆ ナチュラル・ロード

古の知恵の塊り！羽毛山堤防と桜に癒されました。

三好礼子
エッセイスト・元国際ラリースト
～http://www.fairytale.jp/～

先月行った上田市ローマン橋でランチツーリングの途中、どうしても気になった橋がありました。昨年の台風19号で崩落し、3月11日に開通した東御市の田中橋です（県道81号丸子東部インター線）。右岸と共に崩落した20メートルに車が3台が転落し、うち一名が流されて亡くなるという悲しい出来事がありましたが、上信越道と併せて北関東と中南信地方を結ぶ要であり、浅間山や田園風景を楽しめる私の大好きな道。近隣を通る迂回路は細い山道で大渋滞が頻発し、通勤通学のストレスもかなりと聞いていたので、多くの方が喜んだことでしょう。

今回は新潟県出身で東御市在住のライダー山田顕義さんに、田中橋だけでなく災害復旧に向けて頑張っている様々な場所の現在を案内してもらいました。オン&オフ、幹線&裏道にやたらと詳しい山田さんですが、実は様々な地元地域おこしに関わっており、そこの歴史から現状をガイドしていただきながらの行脚。あまりに興味深い所ばかりなので、正直参った！　全てを紹介しきれませんが、徒然なるままに書き記してみます。

まず向かったのは、松本の我が家から車で40分のところにある上田市西内地区の国道254号線。国道脇を流れる内村川が山からの土砂と共に増水し、路線下が20メートルに渡って陥没。ずっと片側交互通行規制して道路工事をしていましたが、ここは「地元農家さんの協力で命を繋いだ感動ルート」。稲刈り後の水田の提供のお陰で通行止めから4日後には迂回路が開通し、上田と松本の重要路を止めずに済んだのです。道は春に復旧完了ですが、今年の田植えは難しいかもしれません。何方か知りませんが、こういう方がいらっしゃることに感謝。

よく通った上田市東内地区の内村橋の歩道崩落を見てから、田中橋へ。繋がっていたあ！この春で50歳という節目に偶然リメイクとなった訳ですが、嬉しいですね。ここだけでなく、千曲川はどこでも河川工事が全開で行われており、自粛の文字はありません。お体気をつけてくださいね～と思いながら次に向かったのは、東御市しなの鉄道滋野駅裏の布下橋。一歩踏み入れて絶句。歩いて河原まで行けたのでおよそ半時間ほど滞在しましたが、正直、ザワザワの心を抑えることができませんでした。左岸と共に取付部が150メートルに渡って流失。流れてきた樹木や土砂やなんだかわからない生活物質がごちゃ混ぜになって高さ数メートルを軽く超えています。憩いの場所だった公園や珍しい木製の沈下橋も無残な姿のままですが、通行量が少なかったこともあり、ひっそりと復旧を待っているようでした。アフリカの砂漠で見たことあるような、不思議な景色。ある意味ここは…リアルな体験できる場所として活躍できるのでは思ったり（地元の方の意見ではありません）。災害後、興味だけで河川敷に降り立つことができなかったので、初めてそのままの姿を間近で見ました。

この布下橋の「布下」は、「牛に引かれて善光寺参り」伝説の布引観音が由来。近くの布引山の断崖絶壁には、老婆が追い、念じている内に白い布が岩となった場所も道路から見え、20分で登れる布引観音のある絶壁には平日だというのにハイカーの姿がちらほら。かつては観音詣のために電車も通したというほどの観光地（だった）そうですが、なんと気持ちのいいところ！　伝説の意味に、「思いがけぬ縁で他に誘われていい方向に導かれること」とありましたが、まさに今回の旅は「山田さんに引かれて東信路」。布下橋に続いて感動したのは、安政の川除け「羽毛山（はけやま）堤防」でした。今から161年前の安政6年、千曲川の大洪水に幾度も見舞われた羽毛山地区は、5年の歳月をかけて、高さ7・5メートル（最高）、長さ576メートルの石積みの堤防を作ったのですが、今回の水害でもことなきを得ました。写真でも分かりますが、けっこうギリギリまで来ていたのですね。この石積みには強い意思と温かみがあり、ふと、アフガニスタンで用水路建設をしていた「ペシャワール会」の中村哲氏のことが頭に浮かびました。

千曲川沿いに走り、最近注目を浴びている海野宿にも行きました。「日本の道100選」にも選ばれた北国街道の宿場町ですが、そのアクセス道（海野宿橋）が右岸と共に250メートルに渡って崩落。宿場入り口の第一駐車場流失とコロナ自粛で風情ある街道も桜並木も閑散としていましたが、真田の守神である白鳥神社は何事もなかったかのように佇んでいました。木曾義仲が平家征伐のために3千の挙兵を行った河川敷では、初めてみる巨大ダンプやクレーンがフル稼働で護岸作業を行っていました。そう、工事はエンドレス。自然災害もウィルスも怖いけれど、先が見えなくても「頑張って生きていこう」と改めて思えた復興の足跡を垣間見る旅。山田さん、改めましてありがとうございました。今度はみんなでこの道をツーリングですね♪

12時間の通行量が1万3千台と物流と生活に欠かせない田中橋（工事は奥側）。すでに日常を取り戻していました♪

真ん中からポッキリ。漂流物が痛々しい布下橋。

心もポッキリ…。

工事全開の海野宿橋。橋内には新潟→東京への天然ガスパイプラインが通り、橋下のしなの鉄道も1ヶ月間不通に。

かつては伝馬屋敷59件旅籠23件があり、今は美観地区として賑わう海野宿。今年は静寂。写真は山田さ～ん♪

九州の散歩道 長崎街道「シュガーロード」①

フリージャーナリスト　湯浅玲子

長崎街道は長崎と福岡の小倉を結ぶ街道で、現在の長崎、佐賀、福岡の3県にまたがって続いていました。鎖国されていた江戸時代に長崎は唯一海外との交易が認められた港だったため、ここから江戸へと通じる長崎街道は重要な道とされていました。オランダ人や中国人もこの街道を歩き、外国からの献上品もこの道を通って江戸へ運ばれたのです。

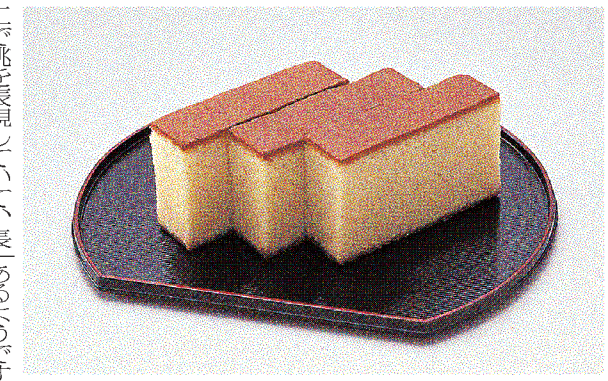
長崎街道には「シュガーロード」という別名があります。当時はとても貴重だった海外からの砂糖が長崎に荷揚げされ、街道を通って京・大坂、江戸へと運ばれていったからです。また、砂糖や菓子作りの技法も入手しやすかったことから、街道沿いにさまざまな銘菓が生まれたことも理由のひとつです。南蛮から伝わった菓子は、それまで日本にあった菓子と違って砂糖をふんだんに使ったものでした。菓子の世界に革命が起こり、街道沿いでは各地の文化や風土を取り入れた砂糖の食文化が花開きました。

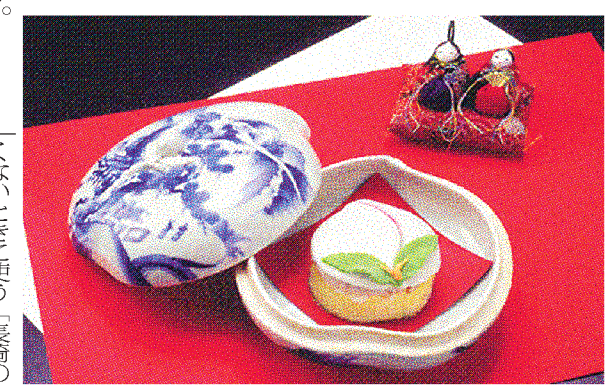
その代表格ともいえるのが長崎のカステラでしょう。ポルトガルから伝わった南蛮菓子をもとに、日本で独自の発展を遂げて、今では長崎の銘菓として全国的に有名です。「長崎カステラ」は商標登録され、ザラメ糖が底に残っていることなどの品質基準もあります。

また桃カステラも興味深いお菓子です。桃をかたどったカステラの上に砂糖細工で桃を表現していて、長崎では古くから桃の節句やお祝いの席で食べられてきました。桃は中国では不老長寿の果物とされています。南蛮・日本・中国と、3つの文化が融合した長崎らしいお菓子が桃カステラなのです。以前は季節限定や注文で作っていた桃カステラですが、可愛らしい見た目から人気が出て、最近は1年中販売している店もあるようです。

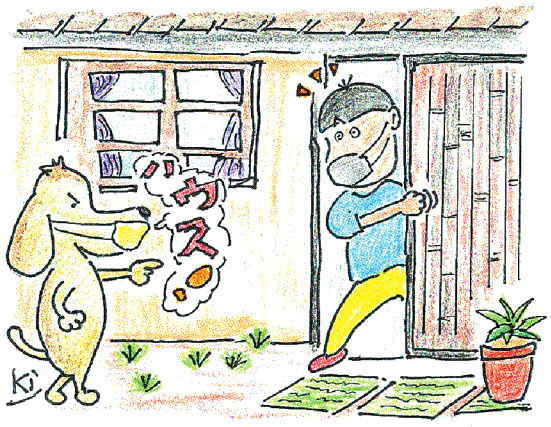
料理にも贅沢に砂糖を使いました。例えば長崎天ぷらは、衣に砂糖などの調味料で味をつけているので天つゆなどをつけなくてもそのまま食べられます。また長崎県大村市の郷土料理・大村寿司は魚の切り身、野菜、錦糸卵などをのせた押し寿司で、砂糖を使った甘い味付けが特徴です。

長崎には料理や菓子が甘くないときに使う「長崎の遠（とお）か」という言葉があります。江戸時代に貴重だった砂糖があふれていた長崎。「砂糖の消費量とその家の文化度は正比例する」とも言われており、甘味が足りないことを「（砂糖をたっぷり使う）長崎が遠く感じられる」というユニークな言葉で表していたんですね。（写真提供：ながさき旅ネット）


長崎のお菓子として全国的に有名なカステラ


最近は土産物としても人気が高い桃カステラ

ハッと思いました



いよいよ大変な事態になりました。先月には、「今しばらくは辛抱我慢」と、少々余裕ある発言をしましたが、事態は決して油断できない局面になってきました。現状を招いたのも、現状でとどまっているのも、目に見えぬ危機に対する各個人の意識の問題かと思われます。危機意識の希薄さが大きな原因でもあり、重大な課題でもあります。

最低でも、ゴールデンウィーク開けまでは、ステイ・ホームの自粛生活を強いられる事が明らかです。人命を守るために、私たちができる最善で簡単な手法が、ステイ・ホームであることは間違いないと信じます。

なのに、なのに、家族が一つ屋根の下にいる事が、ストレスになる？らしいですね。その家は家族なんですか？私には理解できません。我が子より、我が身。命より、お金。そんな冷めた空気を感じてしまいます。

いずれこの状況が治まってくれば（必ず改善されると信じています）、いろんな事が変わっている気がします。

テレワークをはじめとした働き方、人流や物流の形態の変化など、特に昭和の人間には想像もつかない変化が訪れるのでは・・・と。

ライフスタイルが変わって行く事は、人類の歴史から見ても当然なのですが。

兎にも角にも、今は個人の我が儘はご法度。協力が必要な時です。「絆」好きの国民ですから出来るはず。

何だか、クルマの運転にも通じる様な話ですね。

さらに政治や行政にとって、今重要な事は、「優先順位」と、「迅速さ」だと考えます。経済対策も必要ですが、先ずは、生命の危機を回避するための手立てを。

お金を配るのは後でいい。私たちも、現状を確りと把握して、今やるべき事、今やれる事を、冷静に判断しましょう。